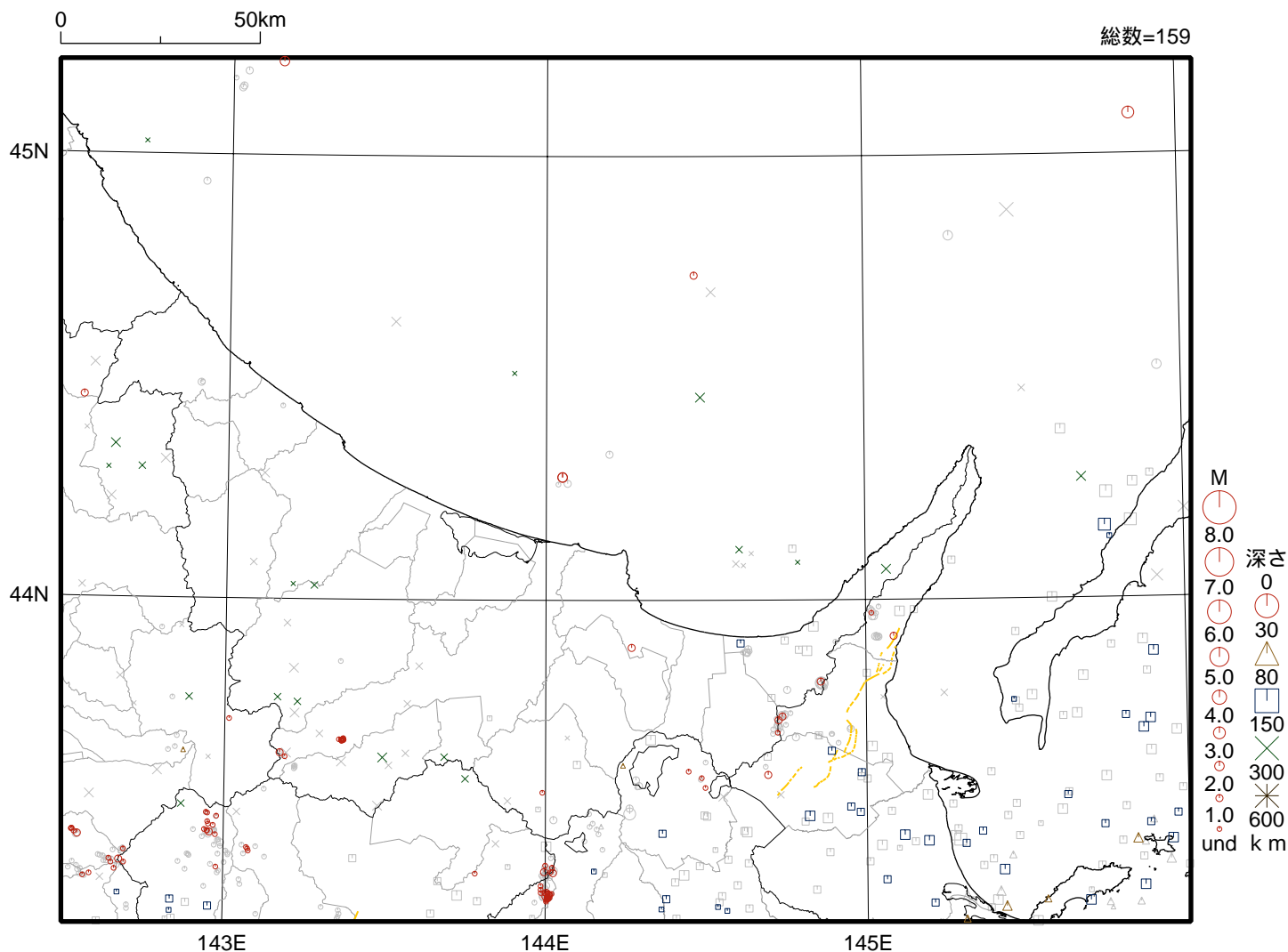


網走・北見・紋別地方の地震活動図

2009年1月1日～2009年1月31日

震央分布図

網走地方気象台



これは速報値であり、データは後日変更することがある。

記号Mはマグニチュード、undは未決定を表す。

图中橙色の線は活断層を表す。

この期間の地震活動と比較するため、前3ヶ月の地震活動を灰色のシンボルで表す。

地震概況（2009年1月）

網走・北見・紋別地方で震度1以上を観測した地震は3回でした（12月は3回）。

11日14時57分頃、十勝支庁中部の地震（M4.7、深さ68Km、震央分布図の範囲外）により、津別町幸町、斜里町ウトロ香川、清里町羽衣町、小清水町小清水、北見市留辺蘂町上町、北見市留辺蘂町栄町、北見市留辺蘂町富士見、訓子府町東町、置戸町拓殖、佐呂間町永代町、遠軽町生田原で震度1を観測しました。

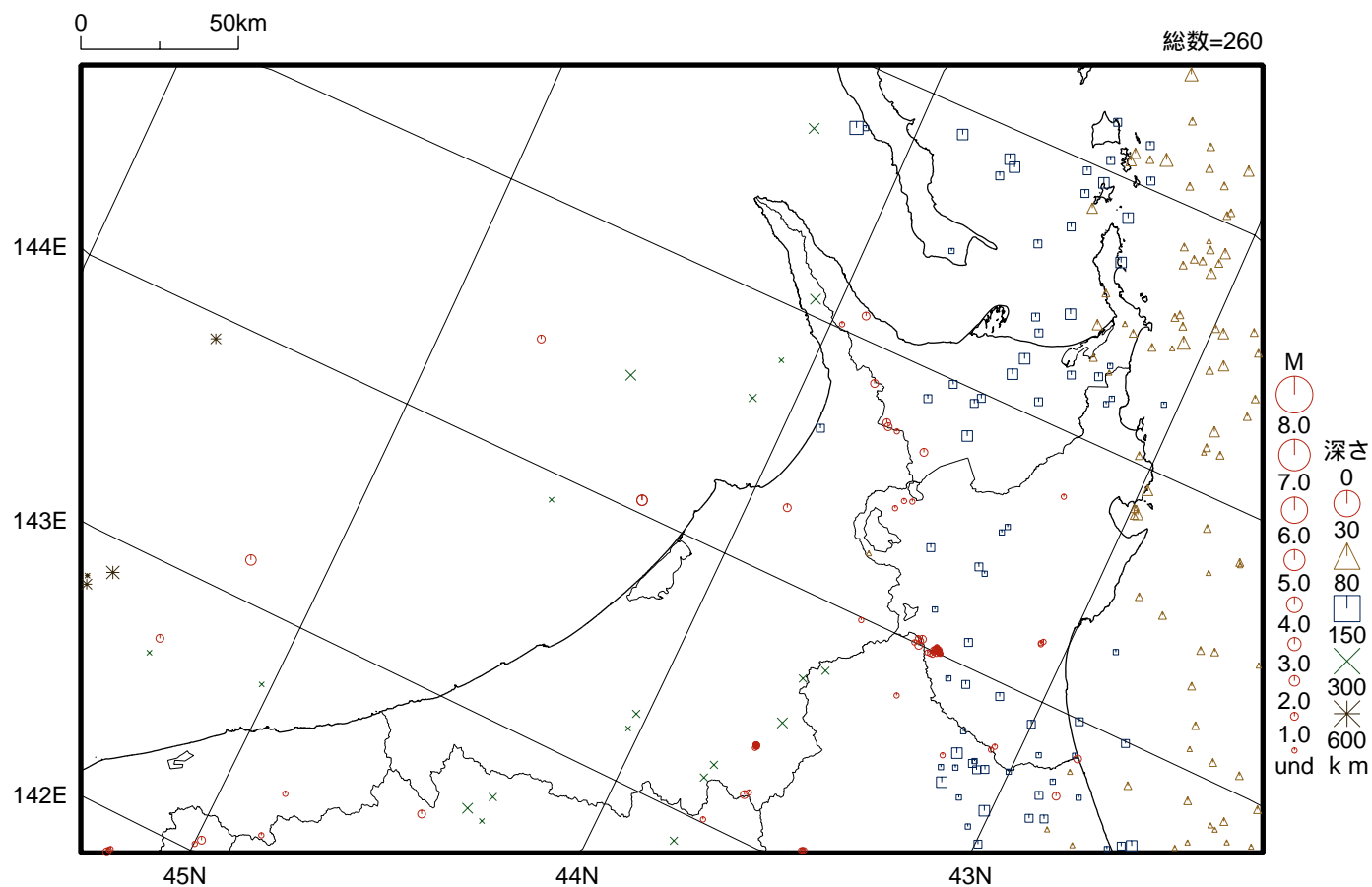
11日21時53分頃、十勝支庁中部の地震（M4.5、深さ88Km、震央分布図の範囲外）により、訓子府町東町で震度1を観測しました。

16日02時49分頃、千島列島東方の地震（M7.4、深さ30Km、震央分布図の範囲外）により、斜里町本町、清里町羽衣町、大空町東藻琴で震度1を観測しました。

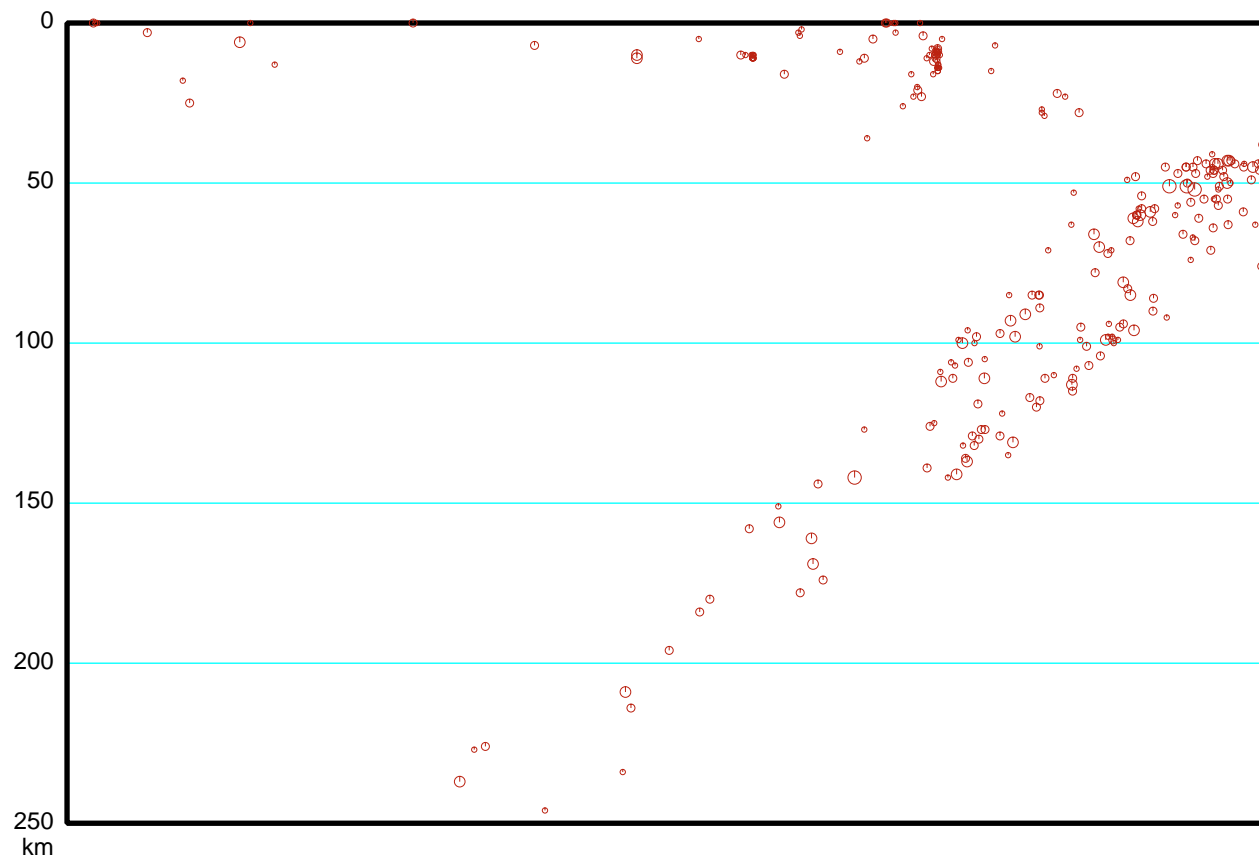
この活動図は、網走地方気象台のホームページに掲載しておりますのでご利用ください。
ホームページのアドレスは、「<http://www.sapporo-jma.go.jp/abashiri.html>」です。

2009年1月1日～2009年1月31日

震央分布図



断面図



これは速報値であり、データは後日変更することがある。
記号Mはマグニチュード、undは未決定を表す。

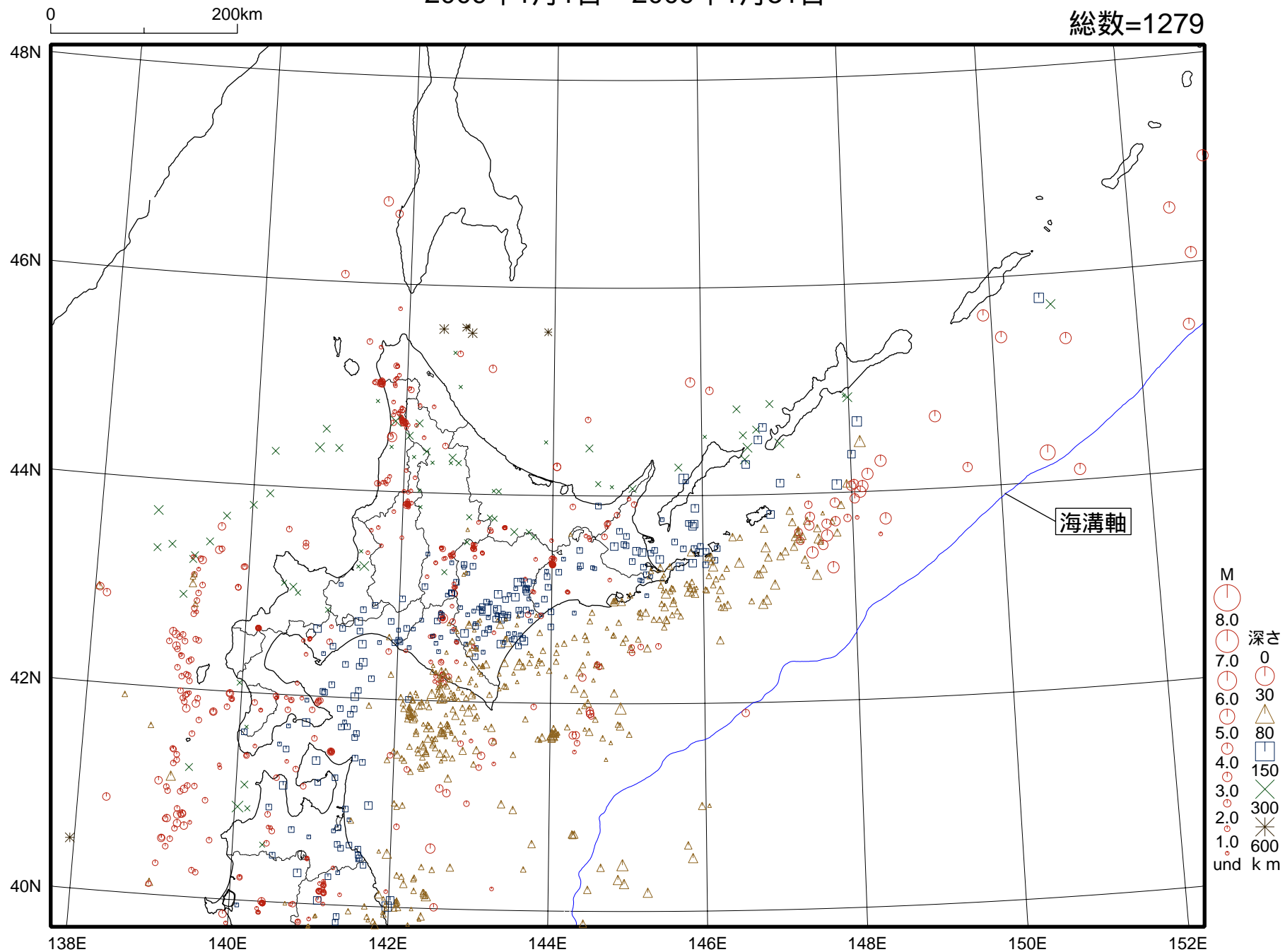
震央分布図

北海道の地震活動図

2009年1月1日～2009年1月31日

札幌管区気象台

総数=1279



震度 1 以上を観測した地震の表（2009年1月）

年	月	日	時	分	震度	震央地名 震度観測地点名	北緯（N）	東経（E）	深さ（km）	規模
2009年	1月	11日	14時	57分	震度 1	十勝支庁中部 津別町幸町* (12) 斜里町ウトロ香川* (09) 清里町羽衣町* (07) 小清水町小清水* (08) 北見市留辺蘂町上町 (09) 北見市留辺蘂町栄町* (14) 北見市留辺蘂町富士見* (11) 訓子府町東町* (11) 置戸町拓殖* (11) 佐呂間町永代町* (05) 遠軽町生田原* (06)	42 35.6' N	143 24.9' E	深さ 68 km	M4.7
2009年	1月	11日	21時	53分	震度 1	十勝支庁中部 訓子府町東町* (06)	42 53.5' N	143 07.6' E	深さ 88 km	M4.5
2009年	1月	16日	02時	49分	震度 1	千島列島東方 斜里町本町 (11) 清里町羽衣町* (10) 大空町東蘂琴* (10)	46 59.7' N	155 10.0' E	深さ 30 km	M7.4

各地の震度は、網走支庁のみを扱っている。

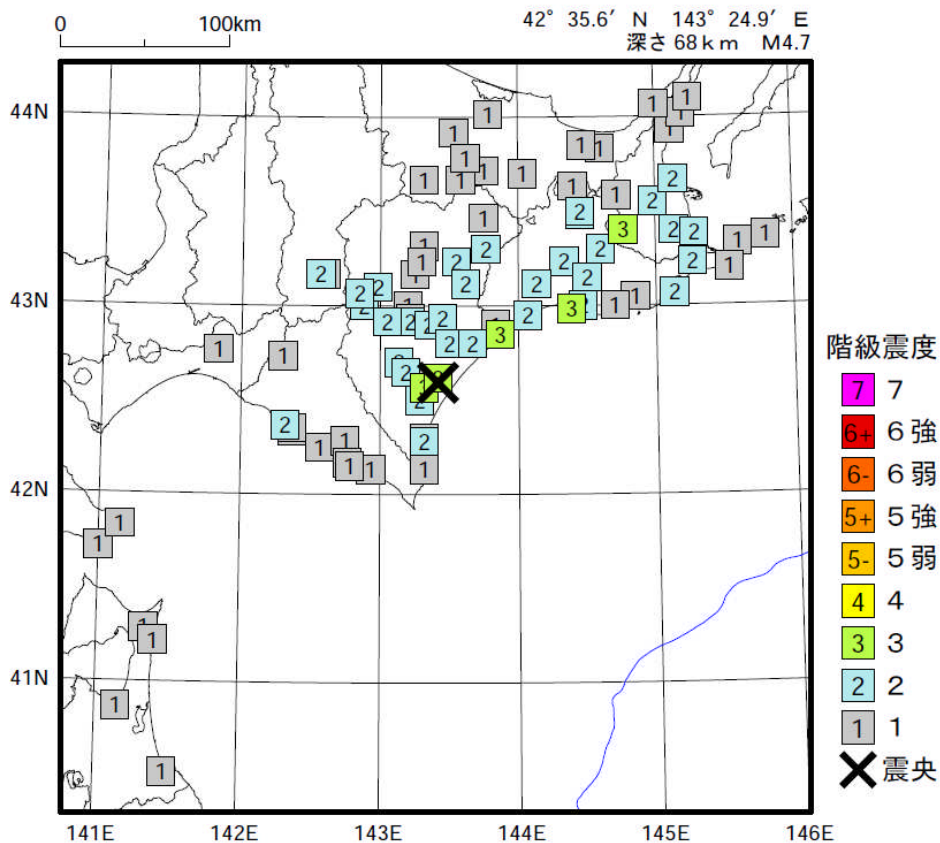
* のついている地点は北海道庁または防災科学技術研究所の震度観測点である。

震源の緯度・経度・深さ・規模は暫定値であり、データは後日変更することがある。

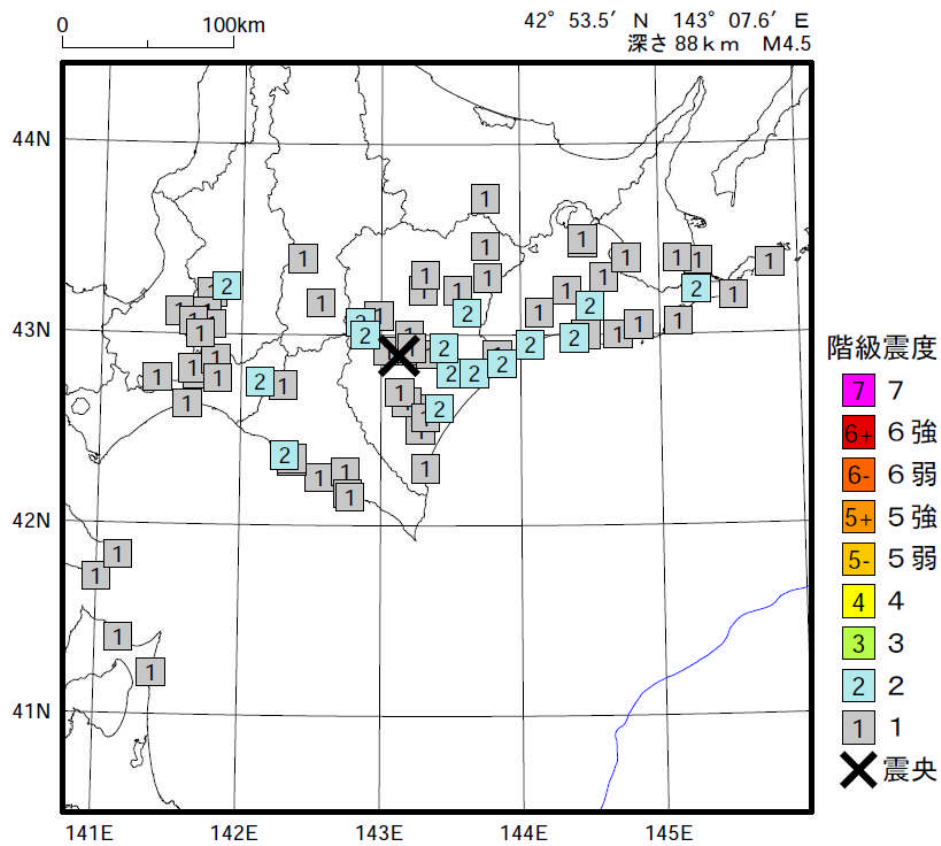
()内の数値は計測震度を表す（×0.1）。

この資料は、国立大学法人（北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学）、独立行政法人（防災科学技術研究所、産業技術総合研究所、海洋研究開発機構）、神奈川県温泉地学研究所、国土地理院、東京都、青森県、静岡県、横浜市、及び気象庁のデータを基に作成しています。

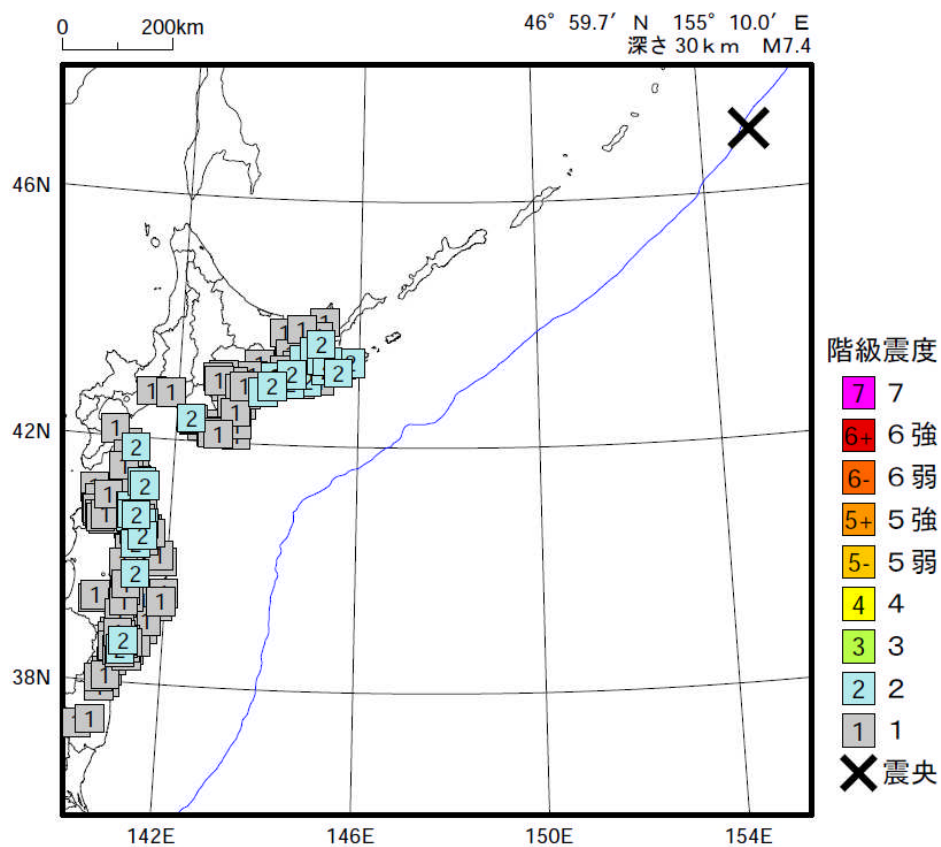
2009年 1月11日14時57分 十勝支庁中部の地震の震度分布図



2009年 1月11日21時53分 十勝支庁中部の地震の震度分布図



2009年 1月16日02時49分 千島列島東方の地震の震度分布図



防災メモ

地震の基礎知識⑦

活断層

最近の地質時代に繰り返し活動し、将来も活動することが推定される断層のことを活断層と呼んでいます。一般的には約 200 万年前から現在までの間に動いたとみなされる断層を指します。活断層の存在は、繰り返しずれた跡が地形や地層に残されていることにより確認されます。

日本国内で近年多発している活断層に起因する地震の例を見ても分かるように、実際に活断層が動いた場合、その近傍では局地的に非常に大きな揺れになることがあります。

活断層はその活動の活発さの程度により、活動度を分類しています。また、一つの断層または断層帯のある部分が繰り返し活動する時間間隔、すなわち地震の繰り返し間隔を活動間隔として表しています。

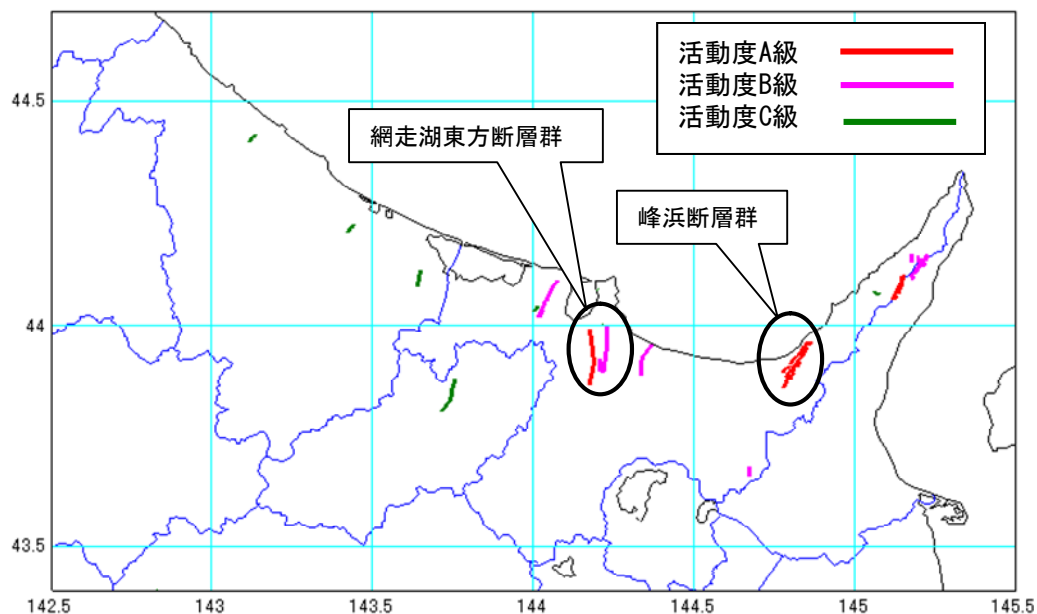
活動度	1000 年あたりの平均的なずれの量	活動間隔
A級	1m以上 ～ 10m未満	千年～数千年程度
B級	10cm 以上 ～ 1m未満	約1万年程度
C級	1cm 以上 ～ 10cm 未満	10 万年前後

(1000 年あたりのずれが 10m以上の活断層は日本国内では知られていません。)

網走管内においても幾つかの活断層が確認されていますが、未知の活断層も数多いと考えられています。また、陸域の活断層で発生する地震の間隔は 1000 年又はそれ以上であるために、歴史の浅い北海道では過去の資料から活動歴を調査することは極めて困難です。

従って管内の活断層が次に動く時期がいつなのかを予想することは非常に難しい状況です。逆に言えばいつ活断層が動いてもおかしくないとも考えることもできます。

こうしたことから、活断層の存在を十分認識した上で防災対策を考えておく必要があります。



網走管内の活断層分布図

(参考資料：〔新編〕日本の活断層)

次回の網走・北見・紋別地方の地震活動図は、3月上旬に発表予定です。